

平成24年度 学校評価報告書

上田市立菅平小・中学校

年間のまとめ

豊かな自然に囲まれた菅平小・中学校において、自ら学び、互いを認め合い、心身を鍛える子どもを目指して毎日教育活動に取り組んでいます。

この菅平小・中学校を更によりよいものにするために、例年学校自己評価を行っています。本年度も前期・後期の2回分けて、皆様のご協力を得てアンケートを実施いたしました。

このアンケートによって毎年自分たちの教育活動を振り返り、自分たちでは日頃気づきにくいことを教えていただきながら、菅平小・中学校は改善を図って参りました。本年度の結果が出ましたのでお知らせいたします。

なお、年間のまとめの内容は次の通りです。

- 1 学校目標
- 2 めざす子どもの姿・中期的な目標（具体的目標）等
- 3 昨年度（平成23年度）からの課題
- 4 平成24年度の重点目標と目標達成のための具体的取り組み
- 5 評価の方法
- 6 自己評価の結果と分析
- 7 学校関係者評価の結果と分析
- 8 自己評価・学校関係者評価の公表
- 9 設置者への要望
- 10 まとめと次年度に向けて
- 11 資料
 - ①保護者・児童・生徒の学校生活等に関する意識調査
 - ②学校自己評価集計表

平成25年3月

上田市立菅平小・中学校

校長 堀内 不二夫

1 学校目標

郷土を拓く大地の教育

- (1) 自分から進んで学習を進められる児童・生徒の育成をめざす。
- (2) 互いの良さを認め合い、前向きに取り組む集団生活をめざす。
- (3) 菅平の産業に学び、郷土に生きる人材を育てる。

2 めざす子どもの姿・中期的な目標（具体的目標）等

- ①自分で考え、判断し、行動できる子ども
- ②自分や友だちの良さを認め合える子ども
- ③仲間と協力して課題を解決していこうとする子ども
- ④自らを鍛える逞しい子ども
- ⑤郷土に誇りを持ち、郷土を愛する子ども

3 昨年度（平成23年度）からの課題

<学習面>

どの子どもも学習に意欲をもって取り組み、わかる楽しさが味わえるように工夫と努力をしていくこと。

<人間関係>

友だち関係では、9割近くの児童が友だちの良いところを見つけようとしています。しかし、クラスの中で認めてもらったことがないと答えている児童が少なからず見られます。割合の問題ではなくて、仲間に認めてもらおうと努力をしている児童・生徒を思いやり、クラスの児童・生徒一人ひとりに目を向けて、学級経営を進めていくこと。

<家庭との連携>

児童・生徒の良い面を積極的に伝え、よりきめ細かな個別指導や子どもたちとの接触を密にしていく。また、その関わりに関して家庭と学校で共有し合えるような発信をしていくこと。

4 平成24年度の重点目標と目標達成のための具体的取り組み

重点目標	具体的取り組み
(1) 自分から進んで学習を進められる児童・生徒の育成をめざす。	<覚えること><考えること><伝えること>の場面を明確にしていくことで、学習の質の向上を図る。
(2) 互いの良さを認め合い、前向きに取り組む集団生活をめざす。	まずは教師から、児童生徒の良さを見つけ、クラスに伝えることで互いの関わりの質を更に高める。
(3) 菅平の産業に学び、郷土に生きる人材を育てる。	野菜作りやスキー指導体験を取り入れたキャリア教育の実践。

5 評価の方法

前期（10月中）・後期（2月中）のアンケートにより実施。同じ質問をすることで、変遷についての考察をする。

6 自己評価の結果と分析

学校目標に対する職員の取組は、四六時中意識しているということではないが、
＜菅平らしさ＞を意識した取り組みをしているといえる。それは「現状の菅平を知る」という段階であり、「菅平を拓く」といった大きなものではない。しかし、日常の活動を積み重ねていかないことには、児童・生徒が「いつか、自分の力で菅平を発展させる」という意識には行かなはらずである。日常の活動から、地域・保護者・学校職員が連携を取り合うことで、より児童・生徒の明るい未来を築けると信じて、今後も取り組んで行きたい。(中間考察)

冬を越え、スキー活動を目の前にすると、より＜菅平らしさ＞が意識できたのではないかと思われる。この時期だからこそ、＜今後の菅平はどうあるべきか＞が見えてくるとと思われる。中学校3年生のスキーにおける活躍が、それらの一助となりえた面もある。児童・生徒が、「いつか、自分の力で菅平を発展させる」とまではいかないまでも、活躍を知ること、「いつかは自分も！」と夢を持つきっかけにはなり得たのではないだろうか。そのような明るい話題に後押しされる形で、これからも、地域・保護者・学校職員が連携を取り合い、菅平学校の発展のために尽力していきたい。(最終考察)

7 学校関係者評価

学校自己評価集計表を提示し様々な角度からご意見を頂いた。

前期では、

- ・アンケートを改善して、具体的に評価できるようになってきているのはよい。
- ・アンケートの結果に対して、どのように取り組んできて、どうよくなってきているかが大事である。

という提言を頂いた。また、授業参観を通して、

- ・先生方が熱心に指導し、子ども達も素直で元気に育っている。学校が大変明るい。
- ・「学校にやらせることが多すぎて、先生方が大変だ。そんな中で、先生方は本当に良くやって下さっている」と、肯定的に受け止めていただき、職員の取り組みについて高い評価をいただいた。

後期では、

- ・本校はスキーと高原野菜で成り立っている。それが観光や産業と強く結びついている。そこから知的好奇心を揺さぶり、学習場面に結びつけられたなら、学習の目的がより明確になるのではないか。
 - ・Uターン率が高い地域ということで、小中の繋がり、先輩・後輩の繋がりを強化していく上でも、中学校競技部の選手達の活躍は頼もしい限りだが、スキーが苦手な子や、競技に気持ちの向いていない子達の気持ちや立場も尊重している雰囲気を保って行って欲しい。
- 等のご意見をいただいた。

8 自己評価・学校関係者評価の公表

別紙の資料配布およびホームページに掲載

9 設置者への要望

特にありません。

1 学習活動について

24年度は「自分から進んで学習を進められる児童・生徒の育成をめざす。」を、前年度から継続した重点目標とし、「興味や関心を高めるための、めりはりの場面を仕組む授業を行う」、「小中連携の中で、学習内容の系統を意識した、児童・生徒の学びの質の向上を図る」を重点活動とした。

【成果と課題】

先生方には今年度も精力的に学習指導をして頂き、次のような成果と課題が見えてきた。

- 小学校：子どもが興味や必要感を持ち、意欲的に授業に参加できるような工夫を考えてきた。既習事項を活用しながら学習させることで定着をはかり、振り返りに時間を多く取るように心がけてきた。特に、具体物を使った授業では時間を忘れてまで熱中する児童が見られたり、それら具体物を共通話題として、児童達が相互に関わり合ってお互いの意見を大切にしながら活動したりする姿が見られた。毎時間その授業でねらう学習内容をしっかりと絞り込み、身近な具体物を教材とすることで児童が「できる！」と思える授業づくりを目指すことを課題として取り組んでいきたい。
- 中学校：興味をもって学習できるよう、学習問題提示の工夫をしたり、問題を解決できたという喜びがもてるような授業を構想したりしてきた。その結果、生徒一人ひとりが現状を振り返ることができ、問題意識をもつことで、目の前の課題に対しての願いが生まれてきた。今後は、授業のねらいをはっきりさせ、その時間に何を達成できればよいのかの見通しを生徒に持たせ、ねらうところの板書、まとめの板書を丁寧に心がけることで分かる授業としていくことに取り組んでいきたい。
- 小中乗入授業：
 - (共通) 中学校からの教科担任と小学校学級担任との連携を強めてきた。また、互いに必要なサポートを行い、情報交換を密にしてきた。行事との絡みもあり、思うように進めることが困難な場面もあるが、今後も先を見て計画的に進めていきたい。
 - (小) 中学校から小学校に出向く際には、特に子ども達の言葉を大切にして学習を進めてきた。また、授業から授業までの間隔が開きやすい教科では復習を必ず行っていくことで対応してきた。このことにより、子ども達も授業を楽しみに感じるようになり、休み時間でも教科担任を呼びに行くような積極的な姿が見られるようになってきた。また可能な限り、小学校の担任とTTを行ったが、今後は打合せ時間の確保も含めてどのような取組がより効果的かを模索していきたい。
 - (中) 小学校から中学校に出向く際には、事前の教材研究を行い、基礎学力の向上を狙ってきた。また、中学校職員との対話する機会を増やし情報交換を行ってきた。その結果、友と関わりながら理解しようとする進んで学ぶ姿になっていった。ただし、評価の部分で曖昧になってしまう面があり、指導と評価の一体化を効果的に考えていきたい。

これらのことを踏まえ25年度も

重点目標(1)「自分から進んで学習を進められる児童・生徒の育成をめざす」としつつ、

重点活動を①「小中連携の中で、学習内容の系統を意識した、児童・生徒の学びの質の向上を図るためのTTのあり方を研究していく。」

②「中学校3年生時の学力を意識した、9年間の学習の過程のあり方や、各学年の発達に応じた指導のあり方の研究をしていく。」

としたい。

2 生徒指導について

24年度の重点目標は「互いの良さを認め合い、気持ちが前向きになれる集団生活を目指す。」とし、重点活動は、「仲間の良さに気づき、それを相手に伝える。」「相手の良さを見つけようとする意識を高め、良さを見つける目を育てる」として取り組んできた。

【成果と課題】

- 小学校：子ども達自身が「先生は良い姿を見ているよ」と感じられるように、帰りの会などで級友の良い面を紹介するよう心がけた。また、子ども達が「どういう言動がほめられるのか」と分かる、基準を明確にして日々接するように意識してきた。児童にはそのめりはりは分かりにくいようで、「伝わっていない」と捉える児童も若干はいるが、おおむね教師の気持ちは伝わっている。それを踏まえて、日常生活だけでなく、道徳の授業を中心に、価値ある生き方を学んだり、人との関わり方を学ぶ授業を行っていく取組を継続していきたい。
- 中学校：個々の生徒の良さを認める場面としては、生活記録への記述が多いが、日ごろの行動から認め、周りの生徒に広げていけるように取り組んできた。それらを学級通信のような形にすることで、意識に残すことができたので、かなりの生徒に励みとなっていた。そこから、朝夕の短学活を中心に、幅広い知識や言葉を吸収できるように伝えることをさらに心がけていきたい。

これらのことを踏まえて25年度は、

重点目標（2）互いの良さを認め合い、前向きに取り組む集団生活をめざす。」を継続しながら、

重点活動を①「教師自らが子どもの良さを伝え、児童・生徒の意識を啓発する。」

②「小中それぞれ段階に応じた、コミュニケーション能力や他とのよりよい関わり方を身につける。」（新規）

としたい。

3 キャリア教育について

24年度の重点目標は「菅平の産業に学び、郷土に生きる人材を育てる」とし、重点活動を特に設けずに模索してきた。

【成果と課題】

- 小学校：特別なものでなく、身近にある自然や農業、スキーに関わりながら、それらの楽しさや奥深さを感じさせる取組をしてきた。実際に地域で採れる物を栽培し、地域の方をお呼びして技の伝授をして頂いたり、スキー活動でも長寿会の方々にお世話になったりと交流を深めることができた。さらに、将来の菅平のあり方を考える機会を設け、社会との繋がりを意識した授業の展開が臨まれる。
- 中学校：現在の菅平の生活（家庭を含む）について振り返り、意味付けしていく学習（手紙やまとめレポート等）を取り入れていく。それにより、将来振り返ったときに明らかになる素地が作られると考え取り組んで来た。また中2は職場体験学習の充実をはかったり、全校では、市内中学校のスキー教室でスキー指導者のお手伝いという形で菅平の産業に触れる機会を設けた。今後は、地域の人材を掘り起こし、関わりを作り、計画的に菅平の産業に触れる機会を模索していきたい。

これらのことを踏まえて25年度は

重点目標（3）「菅平の産業に学び、郷土に生きる人材を育てる」を継続し、

重点活動を「地域との交流を通して、この地に生きることの喜びを実感させる。」としたい。